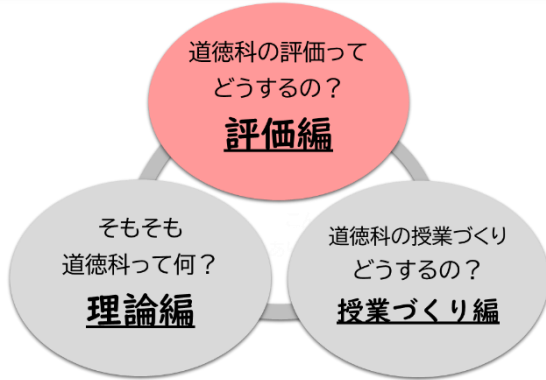


道徳科の評価ってどうするの？【評価編】

「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」）



- ◇ 道徳科における評価の視点がわかります。
- ◇ 評価の視点を基に個人内評価について理解を深めることができます。

【準備物】・研修資料 ・ワークシート ・使用したい教材
・学習指導要領解説(特別の教科 道徳編)

プログラム③の概要

このマークは「子どもの学びの姿」をもとにして考えるポイントです。

- ◆ 評価について
 - ・道徳科の評価はいつ、何のためにするのか
- ◆ 基本事項
 - ・目標に準拠した評価と個人内評価の違い
 - ・評価に向けて重視する視点
 - ・学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するための工夫
 - ・評価の妥当性と信頼性
- ◆ 学習状況の把握
 - ・評価の視点に基づく学習状況の把握
 - ・学習状況の把握に基づく記述による評価

Step 1 道徳科の評価について 基本事項の整理

スライド資料



進行役

評価と聞いてイメージすることは何ですか？

そもそも、道徳科の評価は何のためにするのでしょうか。



教員

学期末が大変…
テスト…
評価をつける…

評定？
観点別評価？



教員

ポイント

評価は、子どもの学習改善につながるものであり、教員にとっては指導の改善につながるものでもあります。評価を子どもの次の学びにつなげるのは道徳科でも同じです。だからこそ1時間ごとの学習状況の把握が大切になります。



進行役

道徳科の評価は、いつするのでしょうか？

ポイント

道徳科の評価は、「道徳科の授業」における児童生徒の学び(発言や意見の変容等)が評価の対象となります。学校教育全体で見られた子どもの道徳的実践(行動等)は評価の対象ではありません。

ポイント

子どもの成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、子どもが自身の成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなるような評価をめざします。

具体例 道徳的実践(行動等)

「困っている友だちを助けることができました。」
これは学校生活の中で見られた道徳的実践に対しての評価ではあるのですが、道徳科の評価ではなく、総合所見や行動の記録欄に記述する内容になります。

メモ

学習指導要領では「児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。」とされています。

Step1の続き



進行役

道徳科の評価において基本となることを確認していきましょう。

ポイント

【道徳科における評価】

- ・数値などによる評価は行わない。
- ・道徳性そのものを評価するのではなく、道徳科の授業における「学習状況」や「道徳性に係る成長の様子」を評価する。
- ・一定の時間的なまとまりの中で評価する。
- ・継続的に把握する。
- ・自らの成長を実感し、よりよい生き方や道徳性の育成につなげる。

ヒント

「自己を見つめ」「多面的・多角的」に考える学習活動を通して、深い理解、深い学びが生まれます。こうした学習における一人一人の子どもの姿を把握していくことが、学習活動に着目した評価となります。

＜学習状況を把握する評価の視点の例＞

- ・一面的な見方から多面的・多角的に発展しているか。
- ・自分自身との関わりで深めているか。



＜評価編のスライド資料＞

進行役の先生が説明に使うスライド資料等を兵庫県立教育研修所のWebページに掲載しています。右の二次元コード、もしくはトップページの各種ツール「先生への研修支援」のページからダウンロードしてご使用ください。

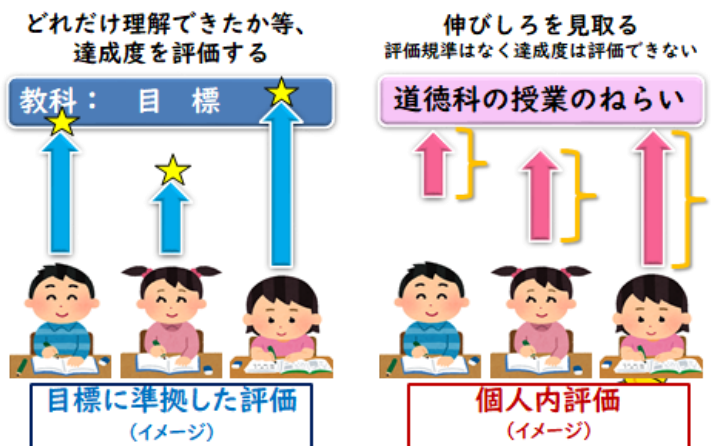


重要! 【個人内評価の考え方】

- ・目標に照らし、到達状況を見取る評価ではありません。
- ・子どもがいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます評価です。
- ・子ども一人一人のよい点や可能性、進歩の状況について評価します。

※ねらいを設定して授業に臨みますが、そのねらいをゴールとして子どもの評価は行いません。

目標に準拠した評価と個人内評価の違い(イメージ)



Step 2 評価の視点に基づいた学習状況の把握

スライド資料

- ◆ここからは、子どもが道徳科の授業で実際に書いた振り返りシートの記述を用意し、演習を行うこともできます。



進行役

子どもの学びをどのように把握し、記述式の個人内評価につなげるのかについて考えていきましょう。

ポイント

評価の視点が子どもの学習状況を把握するポイントです。

学習状況や道徳性に関する成長の様子を見取る評価の視点に照らしたときに、子どもの記述からどのように学習状況を把握することができるでしょうか。

Step2の続き



具体例 評価の視点に基づいた学習状況の把握

- ・はやとさんがおばあさんの後ろをそとついて行くことにした判断について、多面的・多角的に考えることができたか。
- ・母の話を聞いて、はやとさんがとった行動から、相手の立場や状況をよく考えて親切にすることについて、自分自身との関わりで考えを深めることができたか。



進行役

ヒント

見取れる箇所の記述に下線を引いていきます。その際、「自己を見つめている」ことが見取れる部分は赤色、「多面的・多角的に考えている」ことが見取れる部分は黒色、といったように色分けをすると良いでしょう。ただし、明確に分けることが難しい子どもの記述もあります。

Step 3 学習状況を基にした記述による評価の検討

スライド資料



子どもの記述から、どのように学習状況を把握しますか？記述による評価（ワークシートへのコメント等）を書いてみましょう。

他の人が書いたものを見てみましょう。

進行役

ポイント

学習状況を把握し、記述による評価を書く上で意識したことや、大切だと思ったことについて意見交換することで理解を深めることができます。

ヒント

- ・書き終えたら、交流の時間を取りましょう。自分だけの視点で見ないように意識しながら、他の人が書いたものと比べて読むことで、「そういう見方もあるね」など、子どものよい点や可能性に気付いたり、新たな一面を発見したりできます。
- ・上手く自分の気持ちを書いて表現することができない子どももいます。そのような場合、どのように学習状況を把握することができるかを考えることも大切です。例えば、発表や記述に基づいて、個別に聞き取りを行うことも有効です。

メモ

授業者の記述の具体例は、下記の二次元コードからダウンロードできる資料で見ることができます。

Step 4 個人内評価の充実に向けて

スライド資料



記述からの学習状況の把握以外に、評価のための具体的な工夫はないでしょうか。

道徳科の評価において大切だと思ったことについて、近くの人と意見交換しましょう。

進行役

ポイント

- 評価のための具体的な工夫としては、
- ① 記述させる
 - ② 発言を聴く
 - ③ 観察をする
 - ④ ヒアリングをする等が挙げられます。

ポイント

【道徳科の評価において留意するポイント】

- ・ワークシートや作文などを基に、学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握し、認め、励ます姿勢を大切にします。
- ・過剰な言葉（例：「すごい」「すばらしい」「さすが」等）の多用や、否定的な言葉には配慮する必要があります。
- ・評価を通して、ねらいに迫る指導の在り方を振り返り、指導の改善につなげていくことを大切にします。

メモ

兵庫県教育委員会事務局義務教育課の「兵庫県道徳教育 Web ページ」（右の二次元コード）から、道徳教育に関する資料をダウンロードして使用することができます。

例えば「『対話的な学び』を通して生き方についての考えを深める道徳科の授業をめざして」等があります。これらの指導資料を、このプログラム研修を行う際に併せて用いることができます。

<https://www.hyogo-c.ed.jp/~gimu-bo/09doutoku/doutoku.html>

